

説明会 ご意見・ご提言

玉名市学校規模・配置適正化基本計画(素案)については、地域別説明会やパブリックコメントにおいてご意見やご提言を多数お寄せいただきました。その内容(概要)と市教育委員会の考え方を次のとおり公表します。(一部主旨を損なわないように要約しています。)

今後の進め方として、このご意見やご提言を踏まえ、再度検証を行い、再編計画スケジュール等を検討し、本計画を策定していきます。

● 学校規模・配置適正化

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
1	早く、和水町に遅れをとらないように、学校の統廃合を進めて頂きたい。	今のご意見を強く受け止めさせていただきます。
2	1クラス40人学級と書いてありますが、昔は30人学級を目指すと言っていたと思いますが、なんか引き下がったような感じを受けます。	法律では今1年生が35人で1学級、2年生以上は40人で1学級となっておりますが、1クラスの人数は、県の基準として1.2年生は35人というのがありますので、それに基づいて学級編成を行っております。なお、国の方も来年度には2年生までは、35人にするのではないかと考えておりますが、おそらく3.4年生も順次35人学級となるのではないかと考えます。
3	学校規模適正化は良いと思いますが、すぐに出来ないのであれば、月瀬小だけでも吸収合併をすぐにでもして頂きたい。完全複式で子どもたちもかわいそうですし、スポーツもできていません。小中一貫になるのは、良いんですけど何年かかるのなら、そこまで、待てません。だから、月瀬小だけでも、吸収合併という形でどこかの小学校とすぐにでも先に合併して頂きたい。	子どもたちにとっても、深刻な問題として捉えています。説明会を行う上でいろんなご意見が出るとは思いますが、その中の貴重な意見の一つとして取り扱わせて頂き、教育委員会として実現できるように出来るだけ早く取り組んで行きたいと思っております。
4	少子高齢化は、10、20年前から分かっていたことで、複式学級になることは時間の問題であった。小学校は地域の文化センターでしたがお年寄りは我慢して、子どもたちのためにひざを突き合わせて議論した結果、さびしさを我慢して子どもたちのためにと思っていますので、教育委員会の皆様は勇気を持ってどんどん進めてください。日本の教育の問題等は、2、3日議論しても、1ヶ月、1年間議論しても結論が出ないかもしれませんが、玉陵中学校区の皆さんのほとんどが思う気持ちではないだろうかと思っております。	これらを進めていく中で、大変心強いご意見として拝聴しておりました。それぞれ意見を真摯に捉え、補足を加え進めて参りますのでよろしくお願い致します。
5	月瀬支館の運営委員会がありまして、小規模校になるともう選手が足りない、出られない。築山支館とか町支館からどうしてだと思われる。しょうがないので不参加でいっているが、出られない種目があります。	支館長会議の中でも、駅伝大会の選手選びで月瀬支館は、そういう話だと聞いております。支館を統合する問題は支館のコミュニティというのが大事とも考えているため、別と思っております。しかし、深刻な問題と受け止めております。
6	小中一貫校になったならば、子どもたちがどうやって通学するのか。	通学の問題ですが、遠距離になりましたら、スクールバスは当然と思っております。運行方法については、新しい学校の設置場所によって変わってきますが、子どもたちの体力維持増進や根気力等を養う面も考えながら、一定の基準をもち、教育委員会だけではなく、新しい学校づくり準備委員会の中で、地域皆様一緒に検討していきたいと考えています。
7	小学校の統廃合が行われた場合、地元にある小学校はどうなるのか心配です。	跡地の問題ですが、学校は今までの歴史が詰まっている所であり、その歴史は何らかの形で残すことは必要であると思っております。これも、新しい学校づくり準備委員会の中に跡地利活用の検討組織をつくり、地域と一緒に知恵や意見を出し合いながら、人が集まる魅力ある施設ができればと考えています。
8	複式学級でも地域に一つずつ学校を残して頂きたい。人数が少なくスポーツに出られないのであれば、野球、ソフトボール、サッカー等においては、クラブチームに入ればと思います。また、小学生まではもちろんスポーツも大事だと思いますが、過疎地域はですね自然が一杯で、山、川、田んぼ等がありますので、本来ならば一杯自然と触れ合いながら育ていくのが良いと思います。	田舎の小学校の小さい学校にも良さが十分ありますし、子どもの時に野山で遊ぶ事によって、体も丈夫になっていくと思います。今の子どもたちをみると、ゲームだったりテレビだったり、なかなか外で遊ぶとしない様ですが、部活動が無ければ外にいかないような状況なので、学校の方でも外で遊ぶように出来るだけ努めています。学校再編においては、いろいろ歴史がありまして、玉陵中学校区においてもいろいろ紆余曲折ありまして現在の形になっていると思います。今、頂いたご意見も十分検討しながら、学校再編を図っていきたくと考えています。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
9	過疎地域になっていく天水に対して、地域発展のために玉名市はどのような努力をされたのか。そのような施策をしないで、玉名市の方針だけを地域に押し付けるのはいかなものか。	社会の現状として、少子高齢化、産業構造の変化、企業活動のグローバル化、厳しい財政状況など多くの課題を抱えている中、将来にわたり住み続けたいと思えるように様々な施策を展開し、計画的に進めています。しかし、中長期的な効果を期待しながらも、現状としては人口が減少傾向にあります。この現状を受け止め、教育現場として、教育環境の向上を図るべきことが責務と考えており、学校規模適正化事業を推進する必要がありますと考えています。地元の学校が小規模校だからということで、子どもの就学前に町小校区や築山校区に家建てたり、借りられる現状もあり、子どもが大きくなって「良い教育」だったと、そしてその子どもが、もっと大きく3世代で住んでいけるようになっていければと思います。
10	学校規模適正化を検討された中で、中学校が40名となっているが、中学生が40名になると教室がぎちぎちになる状況をどう思われるか	確かに、中学3年生が40名となると多いという感覚になるかもしれませんが。昔は50、60人学級だったとかよく聞きますけど、以前と比べて子どもたちも多様になり40人でも担任が大変になってきています。ここに示しております学級の人数につきましては、国が標準として定めている人数であり、小・中学校の学級人数は40人と決められており、そしてその人数に基づいて教員の人数が配置されております。ただ、小学校1年に対しては、今のご意見のように多すぎるのではということで、昨年度から1学級35人となっております。熊本県は国に先立ち、1、2年生は35人としており、玉名市もそれに準じております。3年生から40人としておりますが、国も検討を始めておりますが、来年度から、2年生、3年生、4年生、5年生、6年生と段階的に35人学級を進めようとしております。5、6年後には小学校1、2年生を30人にする事を考えているようです。ここに示している人数はそれに沿ったものになっております。中学校についても国としては、小学校から遅れますが、1学級35人編制を考えているようです。
11	児童の減少ありきで話しを進めておられるが、減少させないための玉名市の施策はどのようなのか。	お話のとおり減少していくことを予測して計画を立案しています。この少子化の流れは、玉名市だけの問題ではなく全国的な問題であります。先ほど30年前より約40%の児童が減少したとお話しましたが、これも全国的に同じような数字となっており、この自然に減少していく状況は、国も含めて玉名市だけで止められるものではありません。ただ、この少子化が学校に多大な影響を及ぼしておりますので、現況に合わせた学校再編を進めながら、将来にわたってこの適正化を維持できるように子育て世代の定住化を図る魅力ある学校づくりを進めていきたいと考えております。
12	学校規模については、玉名市の総合計画の中で、5年間で人口を69,000人から75,000人まで増加させる目標をもっており、10年間では1万人が増加する計算になる。玉名市中核都市としての位置付けをし、人口が増加する努力を行っていく中で児童増加はどのくらいか検討したのか。	児童数が増える試算については、市の総合計画の中で目指している1万人増は社会動態としてありうるかもしれませんが、この適正化事業の検討に入ったときには、自然動態と国の人口調査を参考にしながら、減少する方向で、シビアな視点で進めてきており、増加の試算はしていません。
13	教育のためには教員の資質が非常に大事だと思っているが、学校規模適正化を進めると教員の数が減ることになる、採用も含め配置についてどう考えるか。	教員の採用及び人事は県教育委員会である。一時期、県教育委員会も財政の逼迫に伴い、教員の臨時採用が増加していたが、今は新規正職員の採用が増え解消を図りつつある。将来の35人学級や30人学級に対応できるようになっていければ良いと思う。また、先生の資質向上のため、玉名市には教育研究所という組織がある。そこで先生の研修を行っている。現在、先生は保護者との関係、コミュニケーションに苦慮している現状があり、そこを改善しながら、すばらしい教育環境を創っていききたい。
14	小規模校の方が先生と子どものコミュニケーションがとれて良いのではないと思う。地域は学校を中心として形成していると思うので、そのシンボルである学校が無くなると過疎が広がる様な感じがする。玉名市としては跡地を具体的にどのように考えているのか。	今まで学校が中心となって地域が形成されてきたと思っております。学校は、今までの歴史が詰まっているところでもありますし、歴史は何らかの形で残すことは必要だと思います。先ほど、新しい学校づくり準備委員会で検討していきたいとお話しましたが、準備委員会は地元の方々、今まで学校に関わってきた方々に参加いただいて、みんなで検討していきたいと考えています。今時点では、廃校となる学校をどうするかということについては全く決めておりません。皆さんと一緒に人が集える魅力ある施設にしていきたいと思っています。
15	小天東小は良い教育ができていると自負を持っています。より良い教育をするために学校再編をするのお話がありましたが、小天東は体力的にも、学力的にも、親子の関係や先生との関係においても非常に良い関係にある。だから、モデル校としてビデオにとってもらいたいほどすばらしい学校である。再編して悪くなったらどうするのか。	小天東小のよさも十分にわかっておりますし、その小規模校の良さも、先生や子ども、地域とのかかわり、子どもたちの縦のつながりなど、教師として小規模校や大規模校の両方で勤務したことがあるので、それぞれの良さがあることを知っています。その反面課題もあります。小中一貫教育は、義務教育9年間の入口と出口をみんな、地域の皆さんと一緒にって見守る教育です。ですから、小天東小のような学校がもっと増えれば良いと思っていますし、適正規模の学校になっても、そのように温かい雰囲気のある学校が創れれば良いと思っています。その一つの方法が小中一貫教育と思っています。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
16	先週小学校で35人の運動会がありました。見ていてかわいそうかなと思いましたが、どうかとも思いましたが、地域を考えるとあつて欲しいと思う。この小天東小はみんなで創っていて、ボランティアで月に1回、地域の方々に掃除をして頂いたり、先生方には本当に頑張ってもらっている。この学校規模の状況を一番知っておられるのは、現場の先生だと思う。だから、先生の意見を取り込んだほうが良いと思う。	現場の先生の意見は十分に聞き取れていない部分もあると思うので、今後、現場の先生の意見も尊重していきたいと思います。今のお話でも、小天東小学校の良さが十分に伝わってきます。適正化が図られて新しい学校ができるようになった場合、増えた人数の中で今の小天東小学校のような誇れる学校になれば更に素晴らしいのではないかなと思う。天水校区の、一つになった誇れるすばらしい小学校で、子どもたちはもっと多くの友達ができ、喜びや楽しみを感じられればすばらしいのではないかなと思います。
17	この小天東小は学校再編の対象校だと思いますが、運動会や子どものしつけなども含めて地域一体となっております。30代のお父さん、お母さんが小天東小に子どもを通わせたいといって帰ってこられている。また、玉名や天水と関係ない方も小天東小校区に移ってこられ子どもを通わせている。熊本市に住んでいる方も子どもができたから小天東に通わせるために帰ってくるといわれているから、学校再編がなされると、帰ってくる場所がなくなる。このような学校に子どもを増やす施策はないのでしょうか。学校再編になると、遠いからスクールバスで通わせなければならないと思うけど、バスで通うぐらいなら地元に戻りたくないのではと思う。	若い世代が今のように帰って来たいと思える学校を造ることが理想です。その結果が見えるには10年・20年先になる。明日、明後日の話ではないため難しい。それはすべての人に帰ってきてほしいし、そこで教育を受けさせたいと思わせたいと考えています。
18	一小一中ということで進んでいると受けておりますが、小天東保育園に通わせている岱明町や松木の方が東小に通わせたいと思われるも住むところがないとのことでした。地域の皆さんは地域の学校を残して欲しいという気持ちがあると思いますが、行きはスクールバスだけど、帰りはどうなのか。	スクールバスの問題については、児童の通学距離が長くなるので、スクールバスは当然だと思います。新しい学校づくりを進める中で、設置場所によっても変わりますが、児童たちの体力の維持増進・根気力等を養うためにも、一定の基準を設けて運行しなければなりません。この基準は、教育委員会のみならず皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと考えています。また帰りについても、学校の行事ごとなど、学校活動の一環としての基準を設けますが、通学と同様に基準は皆さんと話しながら決めていきます。
19	学校規模適正については、今後の児童数の推移に沿って教職員の数を推測できないか。学級数は書いてあるが、実際の教職員の数は示せないか。	文部科学省の教職員の定数に関する法律を踏まえた上で教育カリキュラムを組んで、県教育委員会に提出しなければならないため、先の数値は出せませんが、平成24年度や過去の実数値は出せます。小中一貫教育を始めたときの教職員の数については、県教育委員会より加配、T、T（ティームティーチング）や少人数指導、特別支援学級等も加味して指示があるため、数値ははっきりと出せません。
20	小規模校から先行して進めるとのことだが、小天東小を含んだ天水校区と、月瀬小を含んだ玉陵校区となるだろうが、玉陵校区は進めてくれという希望が多かったと聞いているが、ここは反対が多いように思う。小さいところが先ではなく、希望しているところから先にしてそれをモデル地区として非常にすばらしい学校にして成功して見せてはどうか。その後、他の地域を進めてみてはどうか。また、小天、玉水、小天東とあるが、特に小天東は坂の多い地域で通学に無理がある。どうしても進めるのであれば分校方式は考えていないのか。	モデル校を造って希望があるところから進めてたらどうかについては、小中一貫教育をするために学校再編をするのではなく、学校再編を進める中で、より良い教育を進める手段として小中一貫教育を導入したいと思っている。ですから、モデル校を造って進めてみることは一つの案として考えます。分校については検討します。
21	小中一貫教育という事で、別に新しく学校を作られるのか。また、作るならば中学校の敷地内に作るのか。	学校施設の配置についてですけれども、この基本計画（素案）にもありましたように、通学区域内のバランス、校地・校舎の状況や通学上の安全、学校立地としての条件などを勘案し、地域住民の意向も踏まえて決定するように考えています。ただ、基本的に考えているのは、1小1中という形の上では、中学校を中心に設置することが良いのではと考えています。
22	スクールバスは離れた所は運行するという事でしたけれど、距離的には何km以上になると運行し、近くのは歩いて行くのか。	子どもたちの安全性や遠距離通学の事を考えると、スクールバスは当然と考えております。スクールバスは新しい学校の設置場所によって変わってきますが、子どもたちの体力維持増進や根気力等を養う面も考えながら、一定の基準を持ち、教育委員会だけではなく、その新しい学校づくり準備委員会の中で、みんなで検討していきたいと考えています。
23	複式学級がある所から優先的にやられると思うが、いつの段階で行われ、モデル的な事は、行わないのか？複式学級のところは、例えば3年生と4年生が一緒に合同で学習するのですから、勉強する上では支障があるのではと思う。早めに複式学級があるところをまず統合する事によって、いろいろな問題・課題を解決していけばと思う。	基本方針にも書いてありますが、望まれる学校規模基準に満たない小規模校（12学級未満）、特に過小規模校（複式学級を有する学校）の小学校が多い中学校校区から再編を進めていきたいと考えておりますけれども、どこからするとかは書いていません。この素案の中に区分を設けております。「早急な対応を必要とする校区」、「本計画期間内に対応を検討する校区」、「本計画期間内では児童数推移を見守る校区」の3つの区分としていますが、全6校区において説明会を行い、ご意見を伺いながらこの3つの区分に分けて、下の全体スケジュールに計画線を入れ進めることとなります。大体、4～5年で新しい学校を作れればと思っておりますが、学校施設などの整備を行うとかかなりの費用が必要となりますので、すべてが一斉に始められるわけではありません。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
24	以前、八嘉支館長をやっていた時、子どもが少ないという事で、月瀬はマラソン大会には参加していない。玉陵中校区は、6小学校有りですので、3つ3つとか出来ないわけですか？現在の校舎を利用して、そういう形にはできないでしょうか？	玉名市教育委員会は、望まれる学校規模基準として1学年2～3学級を目指しておりますので、たとえ3つの小学校が統合しても適正な規模基準を満たす事が出来ません。貴重な意見と承りますが、6校を統合し、出来る限り急いで取り組みたいと考えます。
25	玉南中校区においては、この敷地内には出来ないのですか？今度、体育館を作るわけですね。ここは、敷地が狭いので小学校は出来ないのでしょうか。一緒に敷地内には、小学校と中学校は出来ないのですか？	どこの校区もですが中学校を中心に考えています。どこの校区も既存の中学校の立地条件が違いますが、一緒に利用出来ることを一つの案と思っています。検討した結果、別の場所になる可能性もありますが、基本的には中学校を中心にと考えております。ここに新しい体育館が出来ますので、施設の有効利用を図らなければなりませんので、当然検討します。
26	メリット・デメリットをひとつの形として資料を示してください。	玉名市学校規模適正化審議会の中でも、メリット・デメリットについてご審議頂きました。それで、基本計画(素案)の中に少し出ていますし、審議会の建議の中にも触れてありますので、それを抜粋し整理したものを資料として示していきます。
27	学校校舎をつくる場合は、相当の費用を要しますが、今後10年間で要する費用は総額でどのくらいかかるのでしょうか。また、市単独で行うには、あまりにも多額の費用がかかると思うので、国や県等の補助金がどのくらいあるのか。	単体として捉えた場合、今まで建設した小学校を例に算出しますと、学校の規模や場所によって少し変わってきますが、小学校1校あたり、おおよそ土地取得費に2億円、校舎新築で10億円、体育館2億円、プール建設で1億円程度考えております。単純にそれを合計すると15億円に成ります。新しく学校を一つ作るのにもこれだけの費用が掛かる試算を行っています。ただ、すべて新築で作った場合の試算になります。基本的には、中学校を中心に考え、設置したいと考えており、中学校の敷地内に小学校を作るとか、中学校に小学校を増築するとか、というような方法があります。出来るだけ、市の財政面に配慮しながら、地域の住民の人たちと協議し、確認しながら進めていく事になると思います。また、中学校の空き教室だったり、共有できる施設は使いながら、必要最小限の学校施設を造ります。学校施設だけではなく、今度は中身も、これも相当かかると思います。中のソフト面や事業に必要なもの、こちらの方も重要です。新設した学校の総費用のうち、国から1/3～1/4程度の補助金があります。その他の部分は、市の単費という形になります。学校規模適正化を図られている市町村は多く有り、城北の方でいうとほとんどで取り組まれており、隣の荒尾市、山鹿市、菊池市、阿蘇市などが2～3年前から取り組まれています。
28	スクールバスの件で、小学生が部活をやっていますので部活においては、自転車を使う事を含めて検討されているのか。	部活動や課外授業等においては学校の行事と捉えて、学校の行事に対して何らかの基準を設けていき、これも玉名市教育委員会だけで決めていくのではなく、皆様と話し合いながらどこまでを学校活動とするのかを決めて、運行していきたいと思います。
29	子どもたちの教育の重要性は、学校の先生方の充実が重要かと思えます。そこで学校規模適正化に対する県教育委員会の考え方がどうなのか。もう一つがそれに伴います定数管理の見直しはあるのか。	この、学校規模・配置適正化基本計画(素案)については、当然玉名教育事務所、県教育委員会に説明を行っています。今後も、進捗等について説明し協力しながら進めていきます。定数管理についても、十分な確保がなされるよう、県の方へ強く要請していきます。
30	大浜小学校、横島小学校、豊水小学校の有明中学校区に3校ありますが、豊水小学校に複式学級があります。説明の中で、5年ぐらいを目途にとありましたが、統廃合になるのですか？計画として、そうなった場合、どのような手順になるのでしょうか？具体的には、豊水と大浜と一緒に、その後横島小が合併するような形になるのでしょうか。また、最初から3つが一緒になるのでしょうか。それが、5年くらいで実現するのか。具体的にお聞かせ下さい。	第1次計画として平成24年度から平成33年度までの10年間を、一つのスパンとして区切っております。この計画素案のなかに、「早急な対応を必要とする校区」、「本計画期間内に対応を検討する校区」、「本計画期間内では児童推移を見守る校区」ということで、3つの区分を設けており、今ある5つの中学校校区をその3つの区分に分けます。小規模校、特に複式学級を有する学校から、順に進めるという方針のもとに、この各中学校校区において説明会での皆様のご意見を伺い決定し、本計画を立てる時に計画線を入れていく予定です。この有明中学校校区は他の校区との兼ね合いからすぐには考えておりませんが、豊水小学校が複式学級を有していることを考えると、「対応を検討する校区」と考えています。再編順番が決まりましたならば、そこから4～5年間かけて新しい学校づくりをすることになります。また、まず大浜小学校と豊水小学校から統合して、横島小学校というような手法もあると思いますが、玉名市教育委員会としては、中学校区単位の地域コミュニティは大事であると認識しており、一つの基準として枠として一度にと考えております。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
31	小中一貫は一体施設が望ましいということですが、9年生ということで体育館も共用で使うということになると思うが、今クラブ活動とか部活動とかさかんにやっていますが、クラブ活動等も小中一貫ということで一緒にやられるのか、終了時間が違うので別々にやられると思うが、施設の規模が大きいのが必要なのか、時間帯を分けてやられるのか、そういった計画をお願いします。学習面ばかりでなく、スポーツ面とか、人間性の面でどうなるのか。	体育館等の施設の面ですが、9年間を見通した施設になるし、人数になると思います。400～500人の人数になると思われるので、現施設では足りないと思います。1年生から9年生まで使いますので、例えばバスケットボール等においても、面積が違うと思います。また時間を変えての方法もあるかと思いますが、一緒には使えない部分もある思います。このような場合、大きな体育館とサブ的な小さな体育館が必要と思われます。また、プールにおいても、中学生と小学生においてはサイズの違うプールが必要と思われます。ただ、小学校にも中学校にそれぞれありますが、一度に整備を行うことは無理があるかもしれません。だから、既存にあるものを有効利用しながら、後々には新しい学校に施設整備ができればと思っています。また、多くの児童が集まってくるので、多くの部活動が行えるようになります。小中一体のクラブ活動も良い部分もありますし、中体連等の年齢、区分別の大会もあるので分けて参加する必要もあると思います。ただ、色々なスポーツが盛んになればと思っていますし、対応できるように検討していきます。
32	制服の件で、女性の意見を取り入れて頂きたい。今後、再編で取り入れられるならば女性の意見を取り入れて下さい。	校歌、校旗、通学路、制服等においては、「新しい学校づくり準備委員会」の中で検討を行っていますが、女性の意見が取り入れられるように考えていきたいと思っています。
33	学校の適正規模の考え方について、教育機会の均等や子どもにとっての望ましい教育環境の創出という観点から当然進めていかなければならないと思っているが、学校規模適正化審議会の中で、十分にいろんな意見を出されて進められていると思いますけども、特にどういことが問題だったのか、心配、懸念される部分はどのようなものなのか等を聞かせてもらいたい。	学校規模適正化審議会では、複式学級を有する学校が子どもたちにとって良い教育環境なのか、小規模校という1学年に1学級しかない学校、特に1学級に20人にも満たない学校の現状がこれでいいのかということから始まりました。最初の大きな問題として、複式学級がいけないのか、小規模校がいけないのか、大規模校がいいのか、それとも中規模校がいいのか、という点について話し合いがなされました。その中で、1学級に20人満たない学校、複式学級を有する学校の良いところ、例えば教師が子どもたち一人一人の特性を把握しやすくなったり、よりきめ細やかな学習指導や生活指導ができること、これは直接先生よりお話を聞きました。同じように2年生、3年生、4年生と縦のつながりが人数が少ないと深くなるなど、メリットもあります。ただ、1クラスや複式学級になるとクラス替えができない、それに伴い人間関係が固定化する。これは、審議の中に出たお話ですが、例えば10人の子どもたちがそのまま6年間10人そのまま転校転入もなく進んでいくと、この子の役割は〇〇係、あの子の役割は〇〇係とずっと6年間同じ役割になってしまい固定化するといったような傾向もあるということでした。 それから、子どもたち同士の学びあいや高め合いといった場面が少ない。結果として競争心が希薄になったりする。特に見られるのが体育の時間やクラブ活動、部活動において、同級生の友達が少ないとライバルが少ない。そうすると向上心が伸びないのではないかな。という話もありました。他に、1学級に20人も満たない学級になってくると何かと班編成ができない。この班ではこの学習、この班ではこの学習というほかの学校ではやっているけど、この場合ではできない、そして班同士の学習の成果の発表を合して、みんなで高めあおうということができない。先生もそのような授業をやりたくてもできない。このような話から小規模の学校よりはある一定規模の学校が良いのではないかなという話になり、今の1学年2学級～3学級ある学校を「望まれる学校規模基準」として玉名市教育委員会では決めました。 その他に、学校は地域のシンボルである。学校が無くなると地域が衰退するのではないかなという意見もありました。特に小規模な学校になってくると、学校という施設に子どもが集まらなくなったら、地域が過疎化するのではないかなという話もありました。確かに地域の中心となっている学校に子どもがいて、そこに地域の方々の助けがあつて子どもたちの教育がなされていく。その規模が小さければ小さいほどその和が強くなるのですが、子どもの教育のためには友達が多いほうが良いと思いますし、そういう環境を与えたいという話にもなり、その狭間で審議もありました。大きな学校になると人間関係が希薄になり、子どもたちとの触れ合いも少なくなってくるのではないかなということから大きすぎるのもいけない。地域のコミュニティを守りながら、地域の方々が関わって、保護者、おじいちゃん、おばあちゃんに関わってもらって進めていくためには、1学年2学級～3学級の学校が良いのではないかなという話になっていきました。また、新しい学校になったときには、どのような通学を行っていくのか、学校の枠組みについてのお話では、平成17年10月1市3町で玉名市が合併したのですが、その1市3町での枠組み、中学校区での枠組みが大きなコミュニティの場であるのでは、当然小学校区単位でのコミュニティはありますが、大きく見ても中学校区の枠で、その通学区域を変えないほうが良いのではないかなというような話にもなりました。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
34	教育政策、教育環境建設について財政的な問題はないのか。やり方として全体的に実施する、地域的に段階的に実施していくなど方法としてあると思うが、財政的にどう考えておられるか。	現在21の小学校があり、再編計画では21の小学校を7校にと考えています。これは、どこどここの学校が統合するという話ではなく、新しい学校をつくるという観点で進めています。例えば岱明には4校の小学校が現在ありますが、1つの学校にして適正規模の学校をつくるということなのですが、学校を新設するという場合は、校舎だけでも10億円は最低でもかかると思っていますし、体育館も2億円はかかると思っています。また、プールも1億円はかかるでしょうし、新たな土地にという場合は土地取得にも2億円～3億円はかかると思っています。この金額は過去の建設に要した費用を大まかにお話したのですが、現状では玉陵・天水・玉南・有明・岱明の5中学校区で1小1中となるように考えていますが、すべてを一斉に進めることはできません。それは、財政的なこと、地域のこともありますので、教育委員会としては、順次、方針にある適正規模に満たない小学校、特に複式学級を有する学校が多い中学校区から再編を進めていきたいと考えています。 そして学校を全部新築するということは、財政が厳しい中では無理だと考えています。この岱明中の体育館もそうですが、新しく建設したところもあります。例えば、新しいところと言えば天水中学校は校舎も体育館も新築しています。そのような既存の新しい建物は耐用年数も考えて有効活用しなければなりません。そういうことも含めて教育委員会の考えとして、中学校区単位で検討を進めていることから、中学校を中心に、小学校を併設していくことを考えています。当然すべてを一緒に建てていくことは出来ませんので、既存の建物を有効活用しながら、教育環境の整備を図っていきたくて考えています。財政的試算も考えていますが、玉名市も様々な問題、市庁舎の問題、市民会館の問題もあり、財政のやりくりをしながら進めていくこととなりますが、教育委員会としても既存の施設を活用しながら教育環境を高める施設整備を図っていきたくて考えています。
35	玉名中学校区の滑石小学校はどうなるのでしょうか。	滑石小学校の現状として、今が138人、平成29年度には105人、その先は100人をきるのではないかとという規模の学校になります。やはり望まれる学校規模基準を満たさない学校になります。ですから、学校の再編、通学区域の変更を検討する必要があると思っています。その場合は、隣接しているここ岱明中校区や有明中校区、元々の玉名中校区などいくつか選択肢としてありますが、これは滑石小学校の地域の方々とお話をしながら、どのような学校再編、通学区域の変更がいいのか検討していくことになります。
36	岱明は4小学校あるが、小中一貫教育だから中学校を中心に集まり、1つの学校で1年生から9年生で取り組んでいくと思うが、鍋・高道小が一つの小学校をつくり、睦合・大野小が1つの小学校をつくり、これで一貫教育というふうになるのか。そして、児童数で言うと、この先ほとんどの小学校で減少するようになっているが、岱明の大野小学校だけは38人ほど増えるようになる。その場合、その学校だけでやっていくのか。	岱明中校区の小学校で、今の時点では、2つずつの小学校が1つの新しい学校になれば、望まれる学校規模基準を満たす学校になりますが、平成29年度では、確かに大野小学校は児童数が増える可能性があります。他の小学校では減少が大きい。だから、4つの学校が1つにならないと規模基準を満たさなくなりますので、先にどこどこをという考えはもっていません。
37	大野小校区の専大玉名高校近辺の下河原地区には大野小と玉名町小に行く児童がいる。今回小中一貫教育になり中学校の近くに小学校ができた場合、築山小学校と隣接している校区は今の大野小学校より遠くなる。このような場合、築山小や玉名町小にいけるのかどうか。	学校規模・配置適正化の配慮事項にある通学区域の検討にあたりますが、学校の位置、場所によって変わりますが、今でも通学区域を定める規則の中に調整区域というものがあります。これは、〇〇小学校の通学区域にあるけれども、目と鼻の先に隣の学校が見えているからそこにも通うことが出来るという区域なのですが、その調整区域の枠を広げたり、形を変えたりすることをしなければならないのではと思っています。これも新しい学校づくりを進める中で地元の方、地域の方と話をしていかなければならないと思っています。そして基準や調整区域の設定をしなければならないと考えています。
38	この再編計画は、実行するには議会の承認がいるのですか。	学校を新たに設置する場合は、設置条例を制定しなくてはなりませんので、議会に諮っていくことになると思います。
39	玉名中校区は2小1中となった場合、滑石小学校はどうなるのですか。	滑石小学校については、現在のところ133人の児童がいますが、平成29年度の自然動態の推移では105人になります。少子化を考えると、この先100人を切るが予想されます。この基本計画の方針としては、複式学級を有する学校から順次検討していくということになりますので、滑石小学校はすぐにというわけではありませんが、他の地域を進め、周りの校区の有明中校区や岱明中校区が1小1中を構成していく過程及び玉名中校区の児童生徒数の推移を見守りながら、時期が来たときにはどのようにしてどうするかという協議を始める必要があると考えております。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
40	学校の適正規模が40人学級となって一つの基準となっておりますが、予算等もあると思うが、30人学級や25人学級になるのか。	適正規模基準の1学級40人というのは法律で定められた人数となりますが、前は1学級50人という時もあったかと思います。それ以前はもつとあったかと思いますが。ただ現在、1年生に関しては国の規準では、1学級35人となっております。熊本県は1、2年生で35人学級を行っており、玉名市も1、2年生で35人、3年生～6年生は1学級40人としています。国も今年から2年生35人学級を進めようとしたが、予算の都合の話だとは思いますが見送りました。来年度以降も2年、3年、4年、5年、6年も順次35人学級にしようとしているようであり、その後も1年生、2年生は30人学級にしようとしていると聞いております。また、平成30年度以降の話だとは思いますが、1学級の人数をさらに少なくする方向になってきていると聞いています。
41	過疎化が進んできて学校という学びの場がなくなった場合、ますます人口の偏りが激しくなるのではないかと思います。	地域コミュニティについては、他の説明会の中でも、「地域の学校がなくなると地域コミュニティがなくなるのではないか」というご意見がありました。学校が地域コミュニティの中心を担ってきたことは、十分に承知しております。ただ、子どもたちの教育環境を変えることにより、荒廃が一気に進むともわからない状態であるとも思っています。今後、地域コミュニティの在り方、地域振興についても、市の施策も含めて、また学校の跡地利活用も地域の方々と協議を進めていく予定でありますので、その中で検討していくことを考えています。今まで様々な学校再編が行われてきて今の形があって、その中で地域が作られてきています。ですので、地域の方々と協議しながら次の形を作っていければと考えています。
42	学校再編についてはもはや避けては通れないと思っているが、まず学校再編を進めて、小中一貫教育を取り組まれたほうが良いと思うし、理解がしやすい。玉名の新たな教育を進めていく中では2段階方式で行われたほうが良いのではと思う。	学校再編と小中一貫教育は、個々で進めていくことで考えていただき、この概要版リーフレットも学校規模・配置適正化の基本計画であります。全体スケジュールの中には、方針に基づく小規模校、過小規模校の多い校区から優先的に進めていくことや、この説明会やパブリックコメントの意見を聞いた後に、本計画で学校規模・配置適正化の線を入れて本計画となります。ただ、小中一貫教育と同時進行ではないのですが、この適正配置の枠組みの中で、ほとんどの校区で1小1中という形になり、この教育環境は小中一貫教育を取り組むにあたって良い環境ではあるのではと思っており、同時進行もひとつの検討事項だと考えております。しかし、学校規模適正化、学校再編にはハード事業に伴い財政的な問題もありますので、小中一貫教育を先に導入することもあるとも考えております。

● 小中一貫教育

43	小学校運動会があり、6年生がトップになり、リーダーとなって指導していくという立場の人がいるが、9年間となるとそのまま、ずるずるとなりはしないかと思う。	9年間の4.3.2制で考えた場合、4年生でもリーダーを育てるという取り組みもできるし、次の7年生でリーダーを育てるという取り組みもできます。さらに、8、9年生に最上級生としてリーダー性を持たせる事もできます。4.3.2制の先進校では、6年生にリーダー性を持たせ運動会を引っ張ってもらったり、9年生に中学生の応援団としてリーダー性を持たせている例もあります。9年間を一つの括りとする事でいろんな所で節目を作って、いろんな形でリーダー性を持たせたり、子どもたちの良さを引き出したりとした実践例がありますので、本市でも、そういう形でいろいろな節目、段階でリーダー性を持たせる工夫を行い、子どもたちの意欲を9年間維持できるように考えて進めます。
44	玉名町・築山の玉名中校区は、現時点で小学校と中学校が分離することだが、小学校、中学校でそれぞれのリーダーが育っていく形と、玉陵中校区などは全然システムが違うので、子どもたちが同じ条件でリーダーが育っていくのが疑問です。	リーダーシップを発揮するという教育は、4年生でもリーダーが取れる、7年生でも取れ、ましてや8.9年生はもう自分が何を任されても「きちんと出来る」体制をとるという事であって、これは、玉名中学校区においてもきちんとカリキュラムを組み進めていきます。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
48	玉名市が目指す教育はすばらしい事だと思うが、そのためには何をすべきなのか、1年生から4年生は学級担任制、5年生から7年生は教科担任制、8年生から9年生は、進学向け教科担任制とこれは受験を目指してやろうとしているのか、カリキュラムを含めてどうするんだ。という所まで含めて明確に検討して提示して頂きたい。	「玉名学」をどうするんだという事を指導主事を中心に、ただ形だけではなく、子どもたちをどう育てるかを含めこれから十分審議していきます。小中一貫を行い、とその中で玉名学を新しく作って、玉名独自の学習を9年間通してやっていきたいと思っており、今後十分検討を重ね、構築し、ねらいも細かくして項目をあげていきます。また、第二言語においては、8、9年生になったならば、ディベートのような事ができるような人材育成を目標にもっています。
49	玉名学というのがあるが、市の教育委員会の方で内容を決められるのか	しつけや礼儀といった部分の基本的な生活習慣、玉名の伝統文化、日本人の文化そういったものを含めて、9年間のカリキュラムを定めていき、玉名市教育委員会で進めていく予定ですが、各学校の先生やPTA、保護者の皆様にも協力頂くと、さらにより良いものができると思っています。
50	少人数から大人数になり、40人や35人学級となった場合、逆に増えるから、学級担任制が必要になってくるのではないのでしょうか。少人数でできないことを大人数にすると余計に煩雑になるのではないのか。	学級担任制と教科担任制についてですが、1年生から9年生まで学級担任制は必ずいるわけで、担任が子どもたちの通信簿や学級事務などは行っています。学級担任制では全教科を担当の先生が教えることとなりますが、教科担任制では少しずつ理科や音楽などの教科別の専門の先生が教えていきます。1年から3年生は学級担任が子どもを抱っこしたりして温かく見守っていく。5年生からは学力を重視して、9年生になったときに希望進路を掴める様になってほしいと考えています。
51	この学校規模適正化については、文部科学省も審議を重ね展開、推進をしているようだが、これは、説明のとおり児童の40%減というのは非常に大きい減少であり、避けては通れない問題である。しかし、小中一貫教育の取組みについて、今の小学校6年、中学校3年という教育システムはいつ頃、どういう定義をもって構築されたのかを分かってから検討に入るべきと思うが、どこまで掌握されているのか。	戦後の教育改革で6・3制が構築され、それから6、70年が経過し、現在は子どもの成長が身体的にも早くなり、今までの6・3制の枠組みにひずみがでてきていると思われます。もう一つは全国的な調査から見ても、小学校5年生ぐらいから、学校が楽しくないとか、いわゆる自尊感情が5年生から落ちる傾向にある。さらに、中1ぐらいでまた学校が楽しくないという現象が起こると同時に、学習内容の変化や環境の変化により不登校が増えたり、暴力行為が増えているなど中1ギャップが見られると言われています。そこで例えば小・中学校の間に距離は近いけれども川が流れていた。小中一貫教育は、その川で泳いだり、溺れかけたりしたところに橋をかけて、子どもたち、先生の行き来をしやすくして、義務教育9年間をひとまとめにして、長いスパンをもって子どもたちの学習指導や生活指導にあたっていくことであると考えています。
52	学校規模とは別に小中一貫教育については再度の検討が必要でないかと考える。体の成長も順次変わっていくのはわかるけど、一時期に急激に変化するのが思春期であって、一番大事な時期であるため、なぜそのような教育システムになっているのか考えて見る必要がある。	小・中教育の9年間という経緯は戦後の昭和22年にGHQが学校制度を日本のために整備した義務教育であります。今も文部科学省から都道府県教育委員会、そして市町村教育委員会という縦の線の中でベストの教育の構築を進める研究を重ねている。そこで、この小中一貫教育を構築できれば、若い世代が安心して子どもを預けることができ、「玉名で教育を受けさせたい」ということでの人口の増加や若い世代の定住化につながれると思っている。
53	小中一貫教育については、1～4年生まで学級担任制、5～7年生まで教科担任制、8～9年生が進学向け教科担任制となっているが、小学校6年までは自分もそうだが、学校は楽しいんだということで良いのではないと思う。そして、小学校から中学校へ、「ほたるのひかり」、「仰げば尊し」を歌って、次のステップに行き「よし、やるぞ」ということで将来を決めていくようなことが良いのではないと思う。	教科担任制についても、あくまでも学級担任が中心となってコミュニケーションをとりながら、教科によっては専門性をもった先生たちに、例えば図工、音楽、体育、社会、理科などを教えてもらうことにより、勉強の楽しさが分かり、更に学校が楽しくなるのではない、学校再編と小中一貫教育を進めていきたいと思っています。
54	小中一貫教育は学校再編をする前にできないのか。私たちは一生子どもを育てていきます。小中一貫の9年間ではありません。6年間のあと中1ギャップを失くすことはとても良いことだと思う。だったら高校はないのでしょうか。小さいときにギャップは必ずある。そこを乗り越えるための方法を教えてやるというのではと思う。	ギャップについて多少なりとも乗り越える力を養う必要があると思っています。9年間かけて心も豊かに体も丈夫に精神的にもたくましく育てていくことが小中一貫教育です。また、学校再編とは別に小中一貫教育はできないのだろうかということについては、学校を一体にして、先生たちの職員室も一緒にして、お互いが話をし、小学生を中学の先生が、中学生を小学の先生が接していく中でこそ中身のある小中一貫教育ができるのと思うので、施設を分けた形での小中一貫教育も視野に入れているが、理想は同じ施設で小中一貫教育を進めることです。
55	玉名学という教科は普通の教科に更に加えられることなのですか。	玉名学は現行の総合的な学習の時間や道徳の時間などを、うまく調整し、授業実数を増やさない形で展開していきます。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
56	学業を身に付けることが1番なのか。それと玉名学は小中一貫教育をしないとできないのか。余計にしつけられないのではと思う。また、国の施策で少人数制が進められているが、少人数化は進めてほしい。子どものしつけは人間形成に重きをおいて欲しい。	玉名で教育をやる、これから小中一貫教育をやる、学校再編を進めることは、「玉名で教育を受けさせて良かった」と言われるような教育をつくりたいという気持ちからです。これに向けて充実させて作り上げていきたいと思っています。そして先生たちが安心して子どもたちの教育ができる環境を創らなければならないと思います。
57	玉名高校は中高一貫を行っていますが、玉名市は小中一貫教育と いうことであるが、そのへんの見解は。	玉名高校の附属中学校ができましたが、これは中高一貫教育になります。小中一貫教育は玉名市立の話でありますので、9年の義務教育をどうやるかは玉名市教育委員会の責務である。中高一貫教育は熊本県教育委員会が一生懸命やっていますが、6年生になってその玉名高校の附属中学を受けることは可能です。ただ、玉名市教育委員会は小学校1年生で入った学校で9年間を通してしっかりとした教育を行っていきます。また、附属中学校は試験で入学しますが、市立小中学校はすべての子どもを受け入れ、この子どもたちにどうやって手を差し伸べて育てていくのかを考えています。ただ、それぞれが頑張って良い教育をしていこうとしているのは一緒です。
58	小中一貫教育の件で、現行の課題は今に始まった事ではない。これは、いつの時代から、小学校から中学校にあがる時、全く同じパターンを踏んで来ました。小中一貫教育をする上で、インパクトがないと思うので、もう少し掘り下げて説明しなくてはいけないのではなか？	小中一貫教育についてですが、昔の時代にも段差がありました。近年、特に中一を境に不登校、学校に来れないなど以前に無かった現象がおきています。子どもたちも耐える力とか我慢する力が落ちているようにも思えます。その段差をなくすのではなく、少し軽減し、滑らかな坂にしようと考えています。すこし滑らかにするのが、小中一貫教育と考えています。
59	システムを変える事は重要な事だと思いますが、健全な子どもたちを育成するためには、学校の指導も大切だし、地域も大切です。学校だけでも出来ませんし、もちろん行政も重要です。では、学校の先生方にそれだけ余裕があるかというと、ないのではと思います。ある程度、余裕がないと人間教育が出来ないと思います。先生方への余裕や質の向上を図りながら、それらに対応出来るように学校、家庭等のバックアップも図る必要があると思います。	小中一貫教育になると入学した時の小学校の先生たちが卒業まで見守られ、中学校の先生方も小学校の児童を知っていて、小学校の先生方も中学生になっても見つけ続ける事が出来ます。今、中学校の先生方が一番苦心されている事は、生徒指導です。大変なために余裕がなくなっている状況です。子どもたちも、中学校に上がっても先生方を知っていて、また小学校の先生方も見守って頂けるので安心感があります。また、小中一貫教育をする事によって、先生方の精神的「余裕」が生まれはしないかなと思っております。そのような実践成果が、全国で上がっていますので、そういう事を考えながら小中一貫教育を進めていきたいと考えております。
60	県内でも取り組まれていると思うので、斬新的な取り組みやこれと一緒にの取り組みでなくても良いから、あったら教えて頂きたい。	小中一貫教育に関して本県内の状況ですが、阿蘇の方の産山小中学校が早くから取り組んでいます。宇土市の方で、網田小学校の方が中学校と隣同士で取り組まれています。宇城市でも豊野小中学校が来年度校舎完成予定で、スタートするという事で聞いております。それと八代市が市全体で取り組まれている状況です。八代の場合は、施設一体にする学校もあれば、離れたまま取り組まれる学校もあるようで、いろんな形で小中一貫教育に取り組むようです。県外で近くの八女市についてはかなり充実した取り組みがなされていました。他に、福岡県、佐賀県、宮崎県の方で取り組まれています。全体で4、3割もいない状況で、少しずつ広がっている状況です。
61	学校の先生方は「ゆとり」がないように思います。教育委員会は、全国に先駆けた教育校になるように推進しますという事でしたけれど、「玉名ブランド」は玉名学と思いますが、これだけの事が先生方に来るのかどうかは私、疑問に思いました。	玉名学について、今後精査して1年生から9年生までの期間で、1年生はこれだけ、2年生はこれを、3年生はこれをというふうに系統立てを行っていく、9年間で身に付けさせていこうと思っています。特に、しつけの部分を1年生から取り組んでいき2、3年生と作っていく、落ち着いた学校生活、きちんとした学校生活を送れるようにしたいと思っています。それと、学校生活の部分で一番忙しいのは生徒指導ですので、そういうのが無いようにまた、出来る限り軽減できるような子どもたちにしていくために、この玉名学を十分検討して、中身を精選して作り上げていきたいと思っています。学習時間としては、総合的な学習の時間や道徳、特別活動の学級活動等の時間を調整しながら行っていく予定です。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
62	玉名学に関してはたいへん魅力的に感じました。むしろ、私自身が学びたいと思いました。玉名学が学校のプログラムの中でどこまでできるのかと思う反面、むしろ大人も玉名市民全員が学べるような形の中で、高齢者から直接学べるような仕組みを取り入れ、その中で子どもたちと一緒に伝承的な話を学ぶ方が魅力的だと思います。こういう取り組みを行う事によって「ゆとり」も生まれると感じます。	そのように、更に魅力的な科目になり、お年寄りから直接子どもたちが学んだり活動したりする体験活動もたくさん取り入れて行きながら、玉名学を進めていきたいと思いますし、それによって自分たちが育った玉名を愛し、玉名を誇りに思うような子どもたちになると思います。このような視点を持ちながら、進めていきます。
63	小中一貫教育と、かたや中高一貫教育もありますがこれはどうなのか。また、小中一貫教育で6年生から中学校に上がる際にスムーズにいけるのかなあと心配しております。	中高一貫教育は、玉名高校附属中学校を始め県内公立で3校行っており、他私立も中高一貫教育を行っておりますが、小中一貫教育といっても学習する中身は皆同じであります。小学校で示してある内容、しなければならぬ内容と中学校でしなければならない学習内容につきましては、同じようにその学年で学習して行きますので、中学校に行く際に私立学校に行ったり、附属中学校を希望して行ったりしても問題ありません。学習指導要領に準じた形で学習しますが、第二言語、玉名学については、更に充実していきたいと考えています。
64	小さい時から家庭教育、学校教育、社会教育この三つの教育が子どもたちの基本だと思います。そこで、学校教育、勉強だけではなく、そこに追随した社会教育なり家庭教育、例えば愛国心、君が代の歌、国歌・国旗に対する礼節を学習できる立派な学校を玉名市に創設をお願いしたいと思います。学校給食において、主食である米作りの重要性を知ってもらうためにも、もっと米の利用を増やしてもらいたい。	そのとおりで、学校教育だけでは、もちろん成り立ちませんし、基盤にあるのは、家庭教育であります。家庭教育、学校教育、社会教育が一体的にならないければ、子どもたちに十分な教育を施すことが出来ないと考えています。この玉名学は、グローバリズム、ナショナリズム、ローカリズムを掲げておりますが、内容において、子どもの「しつけ」も行う予定でございます。ただ、それも学校だけでは出来ませんので、学校で教えたことを家庭に持って帰って、家庭で教わっていることを学校に持って来て、そして地域のみなさんに見守って行きながらやって行きたいと思います。また、地域の有形文化財を調べたり、玉名の偉人・名人を調べたり、郷土の民話・民謡等を学習していくのには、地域の力なしには、なし得ない事ですので、今まで同様に、今まで以上に地域と一体となって取り組んでいきたいと考えています。
65	小中一貫教育になると、今まで中学校で起きていた問題が小学校まで低年齢化しないだろうかと思います。	中学校においては、生徒指導に問題を抱えているところがたくさんあり、「中学校の先生方は生徒指導に振り回されている。」という現実も実際、聞こえてまいります。小中一貫教育をすることで、小学校時代を知っている先生方が見守ってくださるとか、中学校の先生方もその子どもたちを小学校の時から知っているという状況になるかと思っています。この小中一貫教育を取り入れたい理由の一つでもあります。小学校・中学校の先生方みんなで見守ると、今起きている中学校の生徒指導の問題は軽減されていくのではないかと考えています。
66	実際にやっている現場の先生とか、保護者の声とか、子どもたちの声とか、そういったことはどうなっているのかを聞きたい	先進校、実践校では、中学校になって不登校が増えるたり中学校の生徒指導の問題が増えたりといった、いわゆる「中一ギャップ」が確実に減ってきている、と報告を受けています。また、近隣の福岡県八女市の小中一貫教育校でも、確実に効果が現れている。逆に、中学生が小学生と触れ合うということで、心も穏やかにやさしくなっているという現実があり、兄弟で小学校6年生と2年生がいたら、一方が中学生にあがると兄弟で登校するように良い効果が上がるのではないかと考えているし、現場の先生からは、確実に雰囲気は良くなっているし、子どもたちも意欲をもって取り組んでいるし、問題も少なくなったという声を聞いております。熊本県内では阿蘇の産山村、それと八代が八代市内全体で小中一貫教育を取り組まれておりますし、豊野の小中学校が来年度開校する予定となっております。宇土の方でも実践されているところがあると聞いておりますし、和水町の方でも小中一貫教育が進められております。小中一貫教育が徐々に進められております。ただ全体の数にしますと、半分にも2割にも満たないと思いますが、小中一貫校は着実に広がってきています。
67	今回の学校再編のお話は建議の中でも検討がなされて、ここに素案として出てきていると思います。具体的にこの有明校区を小学校一つとして話が進んでいるようです。1年生から9年制まで一緒にして、10年度を見据えた教育をなされると思いますが、学習指導要領も5年、10年すると変わってくると思います。その中でも、「玉名学」や「第二言語」については、しっかりとやってほしい。	将来おそらく学習指導要領も変わりますが、ただ基本的に考えているのは、玉名の子どもたちを将来どう育てるかということです。具体的に検討を行っていく中で、学校の先生方と協議をしながらしっかりと進めていきます。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
68	教科担任制を5年生から入れるとしたら、小学校の先生だけでは、足りなくなると思うが、中学校の先生方が降りて来られるとしたら、中学校の先生方の負担が益々増加するのではないかと。また小学校だけでやるにしても、また負担が増すのではないかと思います。また、教科担任制を小学校5、6年からやるにしても、それで学力は向上するのかと実際どうなるのか。考えればいろんな問題点もありますけれども解決できるのでしょうか。	教科担任制を取り入れることによって、図工、美術、家庭科、体育という教科においては、中学校の先生が小学校に来ていただいて授業をすることになると、学校の先生の負担が多くなるかもしれません。ただ、中学校の先生が一番負担に感じておられるのは、生徒指導です。生徒指導に振り回されて、授業どころではないというところが一番負担に感じているところで、その部分を軽減することで逆に授業に先生は集中出来ます。先生は授業するのが一番の仕事ですので、そこに「やりがい」や「楽しみ」を覚えていきます。子どもたちにも、5,6年生に一部教科担任制を入れることによって、料理出来ない人から料理を習うよりも、家庭科の先生から専門的に習うことによって、家庭科は面白いね、図工は面白いね、体育面白いね、理科すごいねと学習に対する喜び、分かる喜び、出来る喜び、そして勉強が楽しいと感じることが出来ると思いますし、これが最終的には、学力の向上に繋がるのではないかと考えております。ただ、楽観的に小中一貫教育を捉えているわけではありません。入学式、卒業式はどうするのか、校長先生は1年生から9年生までどこに焦点をあてて話をするのかとか、様々な課題があると思います。そういう所をじっくり検討しながら、実際進められている先進校の良い所を学びながら、そして課題となっているところを充分に検討を行い進めていきたいと考えています。
69	学校再編を順次進めるとのことだが、小中一貫教育9年制導入もということであれば、若干指導要領が変ってきていることを考えると、地区地区によって、教育の不平等性が生じてこないか。それと、玉名中学校区の2小1中のところはどうなるのか。中学校の先生が専門教科においては、小学校まで教えに行くとかどうなるのか。	指導要領に定めてある部分については、全校で同じように必ず進めます。変更があったとしても一緒の内容を進めていきますので、教育の不平等は生じません。小中一貫教育は、施設が一体が理想です。職員室も小学校、中学校の先生方も一緒になった方が、同じ敷地にいるということで移動もスムーズになったりしますので、教科担任制が取り組みやすくなると思います。施設が別ですと、小学校と中学校の行き来がありますので先生に負担が掛かりますし、連絡や、打ち合わせなどでかなりマイナス面が出てきます。玉名中学校区においては確かに、教科担任制など不便な部分がありますので、検討を進めておりますが、1、2年モデル校的に進めて、実績を検証して、出来る部分から始めていきますし、第二言語の英語や玉名学においては、できる限り一斉に進めて行けるように検討していきます。
70	小中一貫教育は学校再編後でないと導入しないのか。また、小中一貫教育になれば玉名高校の中高一貫教育の玉名高校中等部は廃止する考えはあるのですか。	小中一貫教育は、やはり再編を進めて、小学校と中学校が一体となるのが一番望ましく、よりスムーズに滑らかに進むことが出来ます。ただ、他市では離れた学校で行われている所もあるので、その実績を見ながら、玉名中学校区の2小1中も含め、本市での取り組みの参考にし検討していきます。中高一貫教育は県立の学校です。小中一貫教育は、中学校まで一貫した目標で取り組んでいきます。中高一貫は、同じ6年間で一貫した目標で取り組みます。小中一貫教育だからといって、小学校課程が終了後、試験を受けて中高一貫教育を選択できないわけではなく、私立中学や中高一貫教育も選択することが可能です。進学を選択肢としてありますが、玉名市もすばらしいと言われるような小中一貫教育の構築に取り組みます。
71	小中一貫教育は予測ではなくて、他のデータが出てからでも遅くはないのでは。	先進地的に行われているところはかなりありますので、良いところは吸収し課題になっているところは慎重に進めてまいります。また、現場の先生方の意見も聞きながら、進めていきたいと考えています。
72	小中一貫教育について、これは玉名市独自の取り組みなのですか。また、文部科学省との教育課程、カリキュラムの整合性はとれているのですか。	今全国各地で学校再編が行われていますが、それと歩調をあわせるように小中一貫教育が浸透しつつあります。国のほうも以前は小学校の目標、中学校の目標と別に示しておりましたが、今は義務教育9年間を目標として掲げております。そして6・3制の制度についても検討がなされているところです。ただ、今のところ文部科学省の施策とまでなっていませんが、その方向に動きつつあるということで、全国的に小中一貫教育が広がっています。また、文部科学省では、学習指導要領を定めており、小学校ではこれを学習する、中学校ではこれを学習するという内容ですが、それは小中一貫教育になりましても同じように学習していくことになりますので、全国の中学校・小学校と同じように学習は進めていくことになります。そして、玉名学につきましては、玉名独自の科目になっていきますが、今ある総合学習の時間や道徳の時間、特別活動の学級活動の時間の中で、内容も重なる部分もあるので、うまく組み合わせながら学習していきたいと考えています。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
73	同じ玉名市で町小と築山小は6・3制ですが、他のところは4・3・2制でいきますとのことですが、その違いはどうなるのか。そして、子どもたちは地元の小学校を9年間同じ学校に必ず通えるわけではないので、転校したり、私立の中学校に進む場合、不都合が生じるのではないのか。	玉名町小と築山小は6・3制で他の学校は4・3・2制での違いはということですが、小学校の6年間と中学校の3年間は変わりませんが、そのくりを9年間として考え、前期の4年間、中期の3年間、後期の2年間と分けながらちょっとずつステップアップを図っていければと考えております。最初の4年間は基礎基本の学習をする時間として前期と位置付け、5・6年と中1の3年間で中期と位置付け、中学校へのスムーズなつなぎとし、この中で教科担任制として図工とか音楽とか理科等で導入したいと思っており、これは玉名町小や築山小でも同じように進めたいと考えています。したがって、転校や転入もなんら支障がないと思っています。ただ、転入してきた児童は、玉名学や第二言語について積み重ねがないため、フォローをしていく必要があると思っています。ですから、中学校になって私立の中学校や、中高一貫の玉名高校附属中学校に進むといってもなんら支障はありません。ただ、中学校になるときに、このままここで9年間の学校で学びたいと思っていただけるような教育システムを作っていきたいと考えています。
74	学校規模・配置適正化基本計画があつて、小中一貫教育というのはセットとなっているのですか。あくまでも独立した取組であると考えていいのか。	教育委員会では、学校規模・配置適正化と小中一貫教育を別々に検討を始めました。この学校規模・配置適正化基本計画(素案)の中で学校再編を検討したところ1小1中というところから、小中一貫教育を目指すからそのようにしたのではというご意見を頂くことがあるのですが、学校規模・配置、学校再編計画はそれだけで検討しました。小中一貫教育も学校教育の中での目的があり、それを達成するための手立てとして取り組もうという経緯がありますので、一緒に進めていくことも良いことと思っていますが、別々に進行し検討してきました。小中一貫教育は、先ほど骨子的なものを説明いたしましたが、これを充実させ小中一貫教育の計画を策定したいと考えています。
75	岱明4小学校を集めて岱明中学校に校舎を造ったとして、教育の中で体育祭や運動会など色々な行事があると思うが、小学1年生と中学3年生で同じことができるのか。運動場にしても狭くなるのではないかと心配する。幸い岱明中は岱明の真ん中に位置しているので、通学支援であるスクールバス等はうまくやっていけると思う。	運動会や体育祭の行事についても、他の小中一貫教育校で行っているところを調べて検討しますが、人数が多くないところでは合同で行っていたり、一緒にするけれども6年生にリーダーシップをとらせるということで、応援団は小学部、中学部と分け進めたりもしています。人数が多いところでは、中学校、小学校を分けて体育大会を行っているところもあります。だから、行事ごとは一列にこうだからこうという形ではなく、臨機応変にやらなければならないと思っています。
76	小中一貫教育にある玉名学、これは素晴らしいことだと思いますが、今の学校ではできないのでしょうか。今の児童、生徒が玉名に対してすごい郷土愛が生まれるのではと思うので、小中一貫教育をする前に導入できないか。	玉名学については、郷土学習のみならず基本的な生活習慣や子どもたちに必要なしつけ、マナー、エチケット、国際理解に関する学習など幅広く、子どもたちのより良い育ちを目的に考えています。これはすぐに小中一貫教育ができなくとも、出来るところから始めていきたいと考えています。この玉名学も現在研究を重ねて、出来るだけ早く作り上げ、一斉にスタートできればと考えております。これからの教科書として、地域の教材や伝統、有形無形文化財もデジタル化を図れればと思っています。
77	現在の小学校は1年生で入学して6年生で卒業します。小中一貫教育では1年生で入学し9年生で卒業することになると思うのですが、玉名市の中で一斉にはないでしょうから、進めていく中で8年生と中学2年生が存在するようになる。子どもたちは混乱するのではないかと。	今、全国で取り組まれている小中一貫教育のなかで、法的には小学校としての位置付けはありますので、小学校の卒業式は小学校で、中学校の卒業式は中学校で行われているところもあります。また4年生で2分の1成人式を行い区切りをつくともあれば、中学校1年生から2年生への中期から後期に渡るときの立志式を行い、大人への心構えをつくるなどするところもあります。9年間を一つにすることで逆に節目が増える取組が行われているところもあります。また中体連などは中学生の大会になりますので、一貫校になったとしても中学生がでることになります。ただ、校内では一貫性を持たせるためにも、7年生、8年生という形をとりたいが、今のような話は子どもを混乱させないためにも、一つの課題として検討する必要があると思っています。
78	中1ギャップという言葉は始めて聞いたが、具体的にどういことが玉名の子どもに起きているのか。	中1ギャップという言葉はここ数年、学校現場において聞かれるようになった言葉です。小学校は学級担任が付いて指導していますが、中学校になると教科担任制となる違いがあり、小学校では手のひらに載せたように丁寧に指導するが、中学校は半分大人のような扱い方で指導にあたったりします。また先輩後輩の関係など、そういうところでやや不登校気味になったり、問題行動を起こすようになりつつありますが、玉名市でもありますし、熊本県内でも全国でもあっており、中1で数が増えるという傾向にあります。また、様々な意識調査の中で、学校が楽しくないとか、勉強が面白くないとか、そのような数が増えるのが中学校1年生や小学校5年生であるということもあります。そういう現象を中1ギャップと呼んでいます。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
79	中1ギャップを小中一貫教育で解決できるとのことだが、今まではどう いうふうに対処してきたのか、そのギャップの原因はなんなのか教え ていただきたい。	小中一貫教育では、例えとして、小学校と中学校に橋を架ける事によっ て子どもたちや先生の行き来をしやすくし、義務教育の9年間の滑らかな 接続を図り、段差を低くします。ただ、小中一貫教育をしたからといって全 てが解決するわけではありませんが、段差を低くして、中1ギャップを軽減 させる。そのような形をつくりながら、小中の先生との連携、協力を進めて いくことを行っていきたいと考えています。これまでの対応としましても、こ の年代の子どもたちは精神的にも非常にデリケートなときであり、中学校 の先生が小学校の先生にその時の状況を伺ったり、家庭訪問でお話したり、 スクールソーシャルワーカーや相談員を使ってケアを行っています。 先生は、授業もしなくてはならないが、そういう子の事が気になって、手が 廻らない状況になったりしますが、学校に来るような仕掛けをやって努力 をしている。小学校でも中学校よりは少ないが、不登校が全くないわけでも なく、小学校でも同じような対応を行い努力しています。
80	小中一貫教育というモデル校というか成功している例はありますか。	全国的にも小中一貫教育の取組がじわじわと広がっている状況で、熊本 県内でも阿蘇の産山村や小国町、来年度は豊野の小中一貫教育校が できると聞いています。八代市では市内全域で小中一貫教育を取り入れ ようと動かれている。県外では福岡県の八女市をはじめ福岡県内、佐賀 県、大分県、宮崎県、東京も含め全国的に小中一貫教育が実施されて います。話を実際に伺うと、不登校がゼロになったわけではないが、減っ ているということや、学力にしても、向上が見られるという報告を上げていま す。
81	1小1中となり、小中一貫教育となった場合、〇〇学園の1年生から9 年生という形になるとのことですが、中学校という学校名はなくなるの ですか。新たな学校が出来た場合、〇〇学園の1年生、〇〇学園の 9年生という呼び名になるのですか。	小中一貫校実践校では、〇〇学園中学部、小学部となっているところも あります。教える側の意識として義務教育9年間を1年生、2年生・・・8年 生、9年生と呼んで、先生も9年間の意識をもって教える。子どもたちも義 務教育9年間を意識して学校生活を過ごしていく。その中で1年生～4年 生を前期とし、基礎基本を徹底する時期、5年生～7年生を小学校から 中学校へとつなぐ時期、8年生、9年生を将来の進路に向けて仕上げて いく時期として、意識して取り組んでおられます。小学6年間で学習しなけ ればならない内容も、中学3年間でやらなければならない学習についても 当然やっていきます。小学校卒業のときは卒業証書がありますし、中学校 でも卒業証書はあります。9年間をひとまとめにして連続して捉えて考え ていく。例えば玉名学園小学部、玉名学園中学部として位置付け、学校内 では玉名学園1年生、玉名学園7年生、8年生となるように考えています。 学校設置条例上の話をするると小学部、中学部という名前をつけることにな ると思います。
82	1小1中についてはイメージが湧くが、5年生から7年生の教科担任制 の部分などで、玉名中学校区の現行の3小1中という形での小中一 貫というイメージが湧かないので具体的に説明をお願いします。	玉名中学校区での小中一貫教育の在り方については、玉名町、築山、 滑石小学校と離れた場所に学校があるため、移動などに時間がかかる、 先生方の負担となり難しい面があります。中学校教師による小中への 授業なども限られたものになってくる可能性もあります。運動会や体育祭 などの行事なども大人数ではできませんし、遠足などで目的地を同じにし て交流を図るようなことも玉名中学校区の数では現実的には無理な話だ と思われれます。ただ、学年単位の交流、1年生同士、4年生同士などはや り方次第ではできるかもしれません。当面は1中3小という形になりますが、 この4つの学校が目指している方向、目指す子ども像は同じものにしてい かなければならないと思います。そして、それぞれの学校で、同じ目標、 同じ方向に向かって、9年間を見通して一貫性のある共通した教育活動 を進めていくことになります。他の学校でも小中一貫教育コーディネ ーター置いていくことを考えていますが、当然この玉名中学校区でも小中連 携コーディネーターをおいて、更なる連携を深めていこうと考えておりま すし、先生方の交流も積極的に行い、合同の研修会や授業研究会を開催 したりして、小・中お互いの理解を深めていきたいと考えております。先ほ どお話した玉名学や第二言語については、すぐにでも進めていけると考え ておりますので、他の学校と同じようにやっていきたいと考えています。
83	教科担任制のことで、1年生～4年生までは学級担任制、5年生～7 年生までは教科担任制、8年生～9年生は進学向け教科担任制とあ りますが、現在は小学6年間は学級担任制、中学3年間は教科担任 制だと思います。中学2年、3年は進学向け教科担任となり、一段と 競争意識を駆り立てるような感じがします。小学校6年までの子ども は情緒不安定で情操教育が非常に大事な時期でもあると思う。進 学も大事だが競争に走り過ぎないようにして欲しいと思います。	教科担任制とありますが、中学校も学級担任はいます。一つになった小 中学校においては、5年生ぐらいから教科によっては専門の先生から授業 を受けることを増やしたいと思いますので、これを教科担任制とし、音楽 や家庭科だったり、技術・図工などを中学校の専門性をもった先生に教 えていただくことを考えております。それで、5年生の学習意欲の向上を図 り、学力の向上につながればと考えています。8年生～9年生の進学向け 教科担任制については、進路を決めて、目標をもって頑張る。それに 応じた教科指導をしっかり行う。という思いで進学向け教科担任制としており ます。6年生までは学級担任がより多く関われるような体制をとっていき るようにしたいと考えています。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
84	築山小学校は一部教科担任制で教えていただいています、その成果についてお尋ねします。また、玉中校区で連携をとっていくことは大切なことだと思うが、先生への負担はどうなのか。	築山小は文部科学省から3年間の指定を受け、フロンティアスクールという新しい教育の形として進め、今の学校再編や小中一貫教育につながるようになります。教科担任制については、フロンティアスクールの中で教科担任制を取り入れたわけですが、今までどこにもなかったような事業であり、県教委や文部科学省と協議しながら進めました。中学1年生で、問題等を小学校のうちから解消、軽減できないかということが、小学5,6年生に教科担任制を取り入れたねらいでした。当然、効果もあったが課題もありました。ただ、今一人の先生が一人の児童を見るということはすばらしいことだと思いますが、先生の評価が違う場合もあります。教科担任制を取り入れることにより5,6人の先生が様々な形で関わっていけば、見えないところも見えるようになり、子どもにとって楽しい学校生活になります。このような成果を得ることができました。今後もこのような実践を土台とし、大切にしながら、玉名教育計画を進めていきたいと考えます。

● 教育問題等

85	学童保育の事が気になりますが、0歳から学童保育までの一連の一貫した将来の計画を市当局の考えをお聞かせください。	現在は、全校区には学童保育施設はありません。今回の学校規模適正化においても、このことは一つの課題とっており、この学校規模適正化の推進が図られましたら、学童保育について取り組む必要があると考えています。また、教育方針の中では、幼保教育も視野に入れております。ただ、現状ではさまざまな制度がありますので、すぐには取りかかれたい状況にあります。現在、小中一貫教育を進めていますが、小中一貫に続いて幼保を含めた形も検討する必要があると考えています。
86	玉名市教育委員会の独自性を発揮して頂きたい。例えば、佐賀の方の町では、市で予算化して30人学級をされたと聞いていますが、各自治体で努力されて独自性のある取り組みが行われてきております。玉名市も教育の方に予算を重点的に投資すべきだと思います。世界的にみても、フィンランドは教育に力を入れて成功した国だと思います。これからは、教育に予算を充当していくべきだと考えます。	仮に玉陵中校区が全部統合しても2学級にしかなりません。またH29年には1学年50人未満になりますので、1学級25人にもなりません。むしろ、35人学級ができるように、玉陵中校区に住んでいただけるようなすばらしい教育をして行けたらと思います。減る事を少しでも食い止め、また増えていくような教育を行い、子どもたちが元気になる、地域が活性化するような事を踏まえて進めていきたいと考えています。また、教育と予算の問題については、本当に教育事業にはお金を必要とします。こうした良い教育を進め、教育インフラと捉え、市民の皆様のご理解を得ながら、教育委員会で構築していき、議会の了承を得て、進めていきたいと考えています。
87	子どもたちは、先生たちや学校だけで育つものではないと思う。小天東、小天、玉水のそれぞれの地域や親が関わってこそ、すくすく育つものである。親とか社会とかの関わりをどのようにもっていくのか。	お話されたとおりで、子どもたちは、親、地域の方たち、じいちゃん、ばあちゃんなど色々な方たちに揉まれて育って行きますし、また同級生、下級生などたくさんの人たちの中で、経験や失敗をしながら育っていくものと思っています。ですから、今までと同じように親、家族、兄弟、姉妹、じいちゃん、ばあちゃん、地域の方との関わりを大事にしながら育ってもらうために、「子どもたちのために」という言葉を使わせていただきました。ですから、いろんな方々と関わりをもって大きくなって欲しいと思っています。
88	少子化で子どもは減っているが、特別支援の子どもたちは増えてきていると思います。小さいときからの指導・支援のあり方で自立が変わってくると思う。今も専門性をもった先生が関わっているのですか。そして今後もぜひ専門性をもった先生による自立支援を考えてほしい。	特別支援についてですが、国策の重要課題として捉えてあり、熊本県も同様に捉えている。市は28人の特別教育支援員と看護師1名を配置しているが、先ほど第二言語の話をしました、知的・発達障害の子どもたちにも同様に教育を進め、その子どもなりに力をつけさせていきます。そして自立させていく努力は永遠に続くと考えています。
89	市民体育祭ですが、会場の関係で旧玉名市は玉名市で、岱明町は岱明町で、横島町は横島町で、天水町は天水町で行われていますが、合併したのでどうにか一緒に出来ないか？と私は思います。	市民体育祭においては、それぞれの地域の思いがありまして、スポーツ振興係の方で工夫を行っており、支館長、体育指導員、体育協会等や地域の方々と対策を立てている状況です。
91	今、横島小の6年生は、1クラス40人学級で、だいたい2クラスだったのが1クラスになって詰め込まれている状態で、そこに40人入っています。夏はものすごく暑いと思います。学校再編をされるのは結構だと思いますが、このような状況を改善、検討してほしい。	昔と比べると児童の体が大きくなっており、教室の大きさが足りないと思われるところはあるかもしれません。そういう教育環境の改善も図っていかねばいけないと考えます。

NO.	意見・提言の内容	対応・市の考え方
90	小中一貫教育に関しては賛成なんですけど、子どもが増えるような方策は取られているかどうかをお聞きます。	玉名市においても人口増加のため、定住化のため、少子化対策のため、様々な事業をしておりますが、特に定住化対策事業等の補助事業を行っており、住環境の向上のためハード事業を地域によっては行っております。それと子育ての支援事業もやっておりますが、すぐに効果が、現状でみえているわけではありません。そこで、現状を見極めて学校規模適正化に至ったわけです。当然、学校間の規模格差が出てきており、また教育機会の均等という観点から学校規模適正化を図らなければならないと考え進めております。今、進めております小中一貫教育は、子育て世代の定住につながるような、魅力ある学校をつくる事が玉名市教育委員会の一つの目標であります。
92	また、二学期制が導入されて、もう5年になりますが、学力が向上しますとか、授業日数が確保されますとか、職員の負担が軽減されますとか、導入する際に様々な理由があったと思いますが、実際そのとおりになっているのか。同時に保護者や子ども、教職員はどう思っているのか。前期の終了式の3日後に後期の始業式があることをどう思っているのか。メリハリとして、以前は夏休みや冬休みがあったのでリセットされていたが、このような検証がなされているのか。玉名市は、冬休みを1日間、夏休みを4日間潰して、授業実数を確保しているわけで、熊本市内は従来どおりして授業実数を確保しているわけですので、また全国でも、二学期制を取り入れているのは20%ぐらいです。それで、栃木県とか福岡県では三学期制に戻している自治体さえある。二学期制は増えていないというデータもありますということをお聞きしました。二学期制を導入してうまく行っているかと、小中一貫教育を導入してうまく行くのかということをお聞きを非常に不安に思っています。	2学期制については、導入後、小5～中3の全児童生徒、玉名市内小中学校全保護者、全教職員を対象にアンケート調査を行いました。それによると、2学期制に対する好意的な意見が多数を占めています。現在、5年目を迎えていますが、しっかりと定着しているものと捉えています。
93	この説明会はあと何回か予定されているか。	今時点で計画しているのは、この中学校単位での説明会と、この概要版リーフレットを各家庭にお配りしておりますので、これをご覧頂き6月1日～30日までパブリックコメント、意見公募というものを行っています。この説明会でのご意見やパブリックコメントをまとめ、皆さんにお示しし、それから必要がある校区を検討していく予定ですが、地域の要望等があれば説明会を開催したいと考えています。